

みみとりいせきしゅつどひん
耳取遺跡出土品

【所在地】霧島市国分上野原縄文の森2-1 鹿児島県立埋蔵文化財センター

【種別】県指定有形文化財（考古資料）

【指定年月日】平成20年4月22日



線刻礫

耳取遺跡は曾於市財部町に所在し、旧石器時代から縄文時代にかけて大量の遺物が出土した。旧石器時代の第1文化層（約2万4千年前）から出土した狩猟具や動物解体のための石器であるナイフ形石器や剥片尖頭器^{はくへんせんとうき}、石核^{せっかく}など総数203点の多彩な石器である。

特に線刻礫^{せんこくれき}はシルト質頁岩製の円礫を加工したもので、妊婦を模したものであるという見方もあり、「耳取ヴィーナス」とも呼ばれる。

これらは当時の南九州に花開いた狩猟文化を示す情報として貴重な資料である。